

仙台市内の低標高地で確認された ミズラモグラ *Euroscaptor mizura* の記録

橋本 勝*・斉藤千映美*

A Record of Japanese Mountain Mole (*Euroscaptor mizura*) Found at a Low Altitude of Sendai City

Masaru HASHIMOTO and Chiemi SAITO

要旨：日本固有種であるミズラモグラはその地下生活のため生息確認の事例が少なく、山岳のモグラと認識されてきたが、近年低標高地での死体拾得や生息確認が報告されている。東北地方においても低標高地で初めて本種の死体を確認したので報告する。

キーワード：ミズラモグラ, 低標高地

はじめに

ミズラモグラ *Euroscaptor mizura* は、本州中部の山地乃至高山に棲むと考えられ（今泉, 1949）、群馬県四万（標高760m）、北アルプス蝶ヶ岳（標高2,600m）、静岡県須走、長野県高家、山梨県鳴沢村（標高1,500m）などで採集報告があることから、当初は比較的標高の高い森林内に主に生息するものと考えられてきた（黒田, 1953）。宮城県においても、これまでに蔵王山系不忘山船引林道付近、柴田郡川崎町太郎川、本吉郡本吉町徳仙丈山、栗駒山いわかがみ平などでの捕獲記録がある（伊藤, 2001）。一方、愛知県、三重県では近年になって低標高地（標高70m・100m）での死体拾得の記録があり（寺西・大竹, 1985；清水, 2006）、滋賀県では標高260mで本種の営巣・生息が報告されている。（相良, 2008）

筆者は宮城県仙台市内の標高120mの丘陵地で死体を確認し、拾得した。東北地方の低標高地で本種の確認は初めてである。

採集地の環境

ミズラモグラの死体を確認した場所は、仙台市街を流れる一級河川広瀬川中流域の右岸で、青葉山丘陵（標高202m）の北西端に位置する。ここは、明治の実業家菅克復（かんこくふく1837—1913）が起こした宮城紡績会社が、

のちに仙台電灯株式会社と合併した宮城紡績電灯株式会社（仙台市史編さん委員会, 2001）の所有地であった。明治32年（1899）仙台市が小学校基本植林山として買収し、昭和56年（1981）には青葉山市有林遊歩道として整備された（高橋, 1983）。平成6年（1994）



図1. ミズラモグラの死体があったヒノキ林

* 宮城教育大学教員キャリア研究機構

からは青葉山保存緑地の一部が「青葉の森緑地（総面積114ヘクタール）」として市民に開放されている。園内には散策路がおよそ8キロメートルに亘って完備されており、年間1万1千350人（平成28年）の市民が訪れる。林内にはモミ、コナラ、アカシデ、アカマツ、スギ、ヒノキ植林（図1）（仙台市史編さん委員会、1994）などが点在し、里山の自然の面影を残している。2017年11月13日午前9時49分、散策路（標高120m）で本種の死体を確認した（図2）。

計測

本種の採集物は腐敗がすすんでいたが、計測はできた。頭胴長95mm、尾長20mm、前足長（爪なし）13mm、前足長（爪あり）16mm、前足幅11.5mm、体重24.2gであった。

同定方法

ミズラモグラの下顎の特徴（今泉、1960）である、切歯3本を左右に確認した（図3）。エタノール液で液浸標本にしたのち、国立科学博物館（つくば市）の



図2. ミズラモグラの死体



図3. ミズラモグラの左下顎

川田伸一郎博士が採集個体を開腹し、ミズラモグラの若齢オスであるとの同定報告を得た。採集個体は国立科学博物館で登録標本として保管された。

考察

従来、ミズラモグラは山地以上の標高が高い森林に生息するモグラと考えられていたが、これは本種が地下生活のため、目撃例が極端に少ないことが理由であると考えられる。近年、西南日本の低標高地での記録が報告されている（阿部・横畑、1998）。東北地方においても低標高地でミズラモグラが生息していることがわかったことから、今後、更なる精度の高い哺乳類調査が求められる。

謝辞

国立科学博物館動物研究部の川田伸一郎博士には採集個体ミズラモグラの同定と雌雄の判別をいただいた。御礼申し上げます。

引用文献

- 阿部永・横畑泰志（編）1998. 食虫類の自然史，比婆科学教育振興会。
- 今泉吉典 1949. 分類と生態・日本哺乳動物図説，洋々書房，P58，東京。
- 今泉吉典 1960. 原色日本哺乳類図鑑，保育社，p46，東京。
- 伊藤健雄 2001. 宮城県希少な野生動物—宮城県レッドデータブック，宮城県環境生活部自然保護課（編），p136。
- 黒田長禮 1953. 日本獣類図説，創元社，p97，東京。
- 相良直彦 2008. 滋賀県朽木におけるミズラモグラの存在，とくに低標高の地における生息について，哺乳類科学，48，31-38。
- 仙台市史編さん委員会 1994. 仙台市史特別編1 自然資料1，p121，仙台。
- 仙台市史編さん委員会 2001. 仙台市史資料編6 近代現代2 産業経済，p281，仙台。
- 清水善吉 2006. ミズラモグラ. 三重県レッドデータブック2005動物，三重県環境森林部自然環境室（編），p.55，三重県環境保全事業団，津。
- 高橋宏明 1983. 青葉山散策，あずま書房，宮城。
- 寺西敏夫・大竹勝 1985. 愛知県産ミズラモグラの計測値，マンモ・ス，42，3。